

# 生産性向上支援訓練（ミドルシニアコース）実施事例

## 永川建設株式会社 様

### 《利用事業主情報》

【所在地】長崎県西彼杵郡

【事業内容】総合建設業

【従業員数】55名

### 《利用訓練情報》

【コース名】後輩指導力の向上と中堅・  
ベテラン従業員の役割

【訓練時期】令和2年12月

【受講者数】6名

## 利用事業主の声

業務上多くの資格を取得する必要があるため、その取得のために知識を身に付けることはあっても、その他の教育を受ける機会は少ないと感じていました。

特に、後輩指導については、昔は「職人は技術を先輩から盗んで覚えるもの」と言われていましたが、現在ではその方法は通用せず、基本的なことから指導して身に付けさせる必要があると感じていたことから、今の時代に合った指導法について学ぶことができる機会を探していました。

また、ここ最近はハラスメントの防止、ということが業界内で重要視されており、そのためにはコミュニケーションが重要と考えていました。昔は現場への行き帰りや休憩時間など、仕事の話、日常の話をする機会が多かったものの、今の若手社員とはそういった機会が減っており、会話をしないことでストレスをため込んでしまうことが心配と感じていました。また、コミュニケーションをとることは仕事の効果的な進め方や安全性にもつながるため、そういった部分も含めてコミュニケーションの重要性についても教育を行う必要があると考えていました。

今回の訓練を受講し、受講者一人一人が様々なことに気が付き、後輩指導についての認識・意識が変わったことが一番よかったと考えています。一人一人が自覚をもって、若手を育てるという立場について改めて理解してくれたことで、業務の中でさまざまな変化がみられており、効果が出ていると感じています。今後は各個人で損得を考えたり、感じたりして仕事をしてくれると経営者としても助かります。

ただ、同じ状況では甘い考えがでてきてしまい、ミスにつながったりすること、人は一度学んだだけでは忘れてしまうことから、継続的に訓練を利用したいと考えています。また、今回は中堅層以上を対象とした訓練でしたが、若手社員の育成にも力をいれたいと考えているので、今後もさまざまな訓練を利用したいと考えています。



代表取締役 永川様

## 受講者の声

・若手社員にやる気を出させるよう指導することが難しいと感じていました。今回の研修で学んだことの中には、自分たちが受けてきた指導法と比較すると正直甘いのでは、と感じる部分もありましたが、それだけ今までの建設業界の指導方法が今の時代に通用しないということがわかり、考え方を改める必要があると感じました。現在は相手への伝わり方を考え、話をするよう心掛けています。



企業外観

・若手社員の育成が課題だと感じていました。訓練を受講して、今の若手社員と自分が若手社員だった時の考えは違うので、それを理解することが大切だと感じました。現在はそのようなことを意識して取り組んでおり、若手社員から相談を受けることなども増えているように感じています。今後は怒る、叱るではなく、理解させること、できたときにほめるなど、コミュニケーションをとりつつ、いい環境づくりができればいいと思っています。

・他の従業員との接し方が難しいと感じていました。今回の訓練は普段感じていたことをしっかりと考えるいい機会になったと思います。また、各世代の傾向が見え、考え方が柔軟になったことが社内・現場での対人関係に活かされているように感じています。今後は、各個人に対応した教育をしつつ、チーム一丸となれる指導をしていきたいと思っています。

・部下の仕事に対する熱意が伝わってこないことに悩んでいました。今回の訓練を受講して、悪いところばかり指摘するのではなく、いい部分を認めほめることの大切さを知ることができました。また、自分の感情をコントロールすることで、部下も自分も仕事がしやすい環境を作っていけることが可能であると気が付き、日々ガミガミ怒らないよう心掛けた結果、作業場でも笑顔が見られ、笑い声が出るようになり、嬉しく思っています。

・生産性向上のため、若手社員の育成が重要だと感じていました。今回の訓練を受講して、新たな考え方を得ることができました。現在は、訓練で学んだティーチングやコーチングを活用し、若手社員がうまくできたときにはほめるようにしています。また、休憩時間等を利用してコミュニケーションをとったり、業務に関する打ち合わせを皆で行ったりと、生産性向上に努めています。今回の訓練で学んだことを他の社員にも伝えて、よりよい社内環境を作っていきたいと考えています。

・新人教育を担当していますが、その際になるべく怒らないように指導したいと考えていました。今回の訓練を受講して、相手の考えていることがこれまでと比べて理解できるようになったと感じています。今後も新入社員と関わる機会が多いので、引き続き頑張っていきたいと思っています。